

秋田大学 正員 及川 洋
学生員 ○進藤 浩徳

1 はじめに

土質工学会東北支部では、東北地区地盤調査研究委員会を設け、東北地方主要都市部の地盤土質特性について調査・研究を行なっている。ここでは秋田市街地の地盤特性について、これまで得られた地盤情報に基づいて若干の報告を行なう。

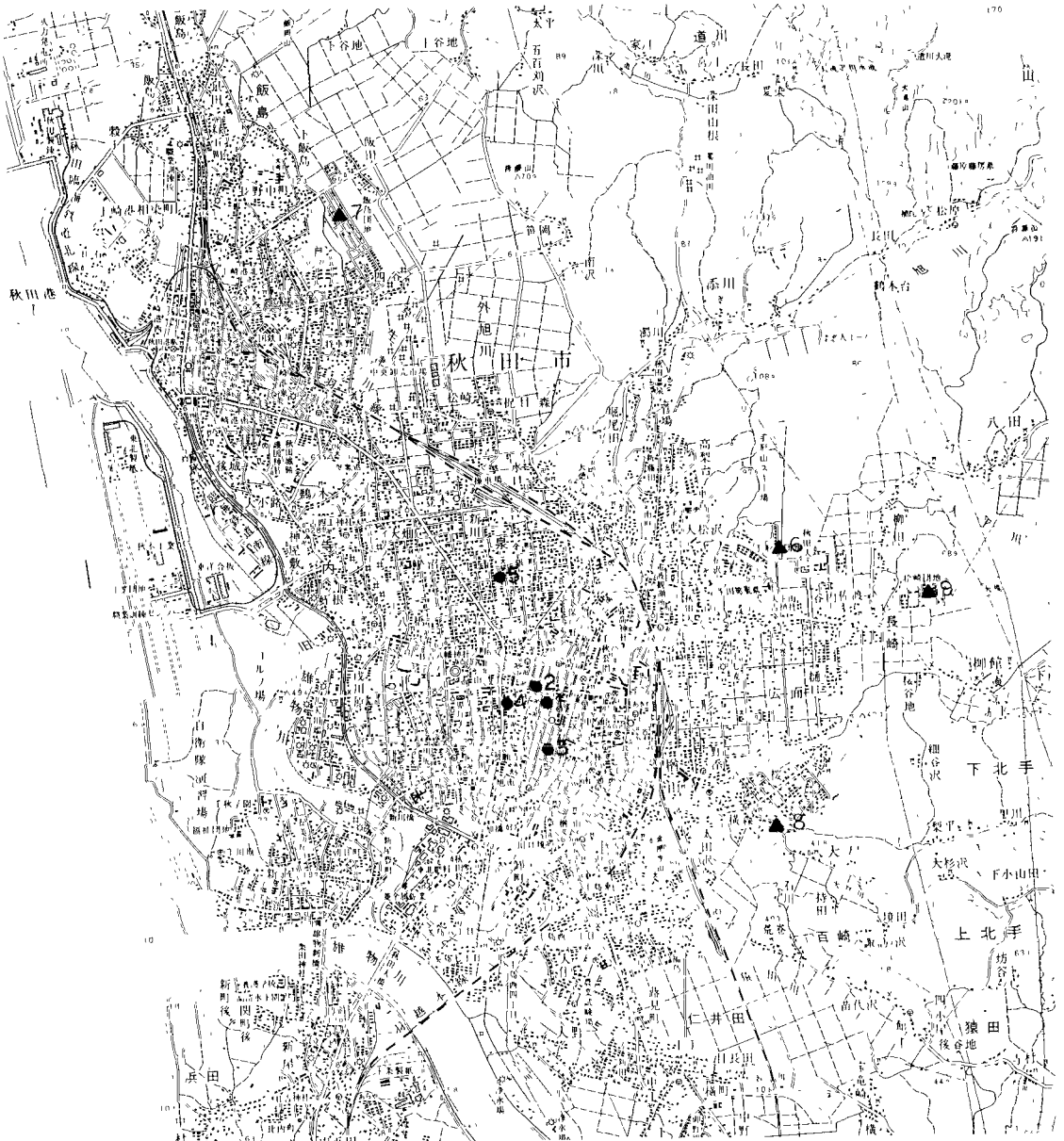


図 - 1 秋田市街地

2 秋田市街地の地盤特性について

秋田平野はかつて大きな淡水性の潟であつたと推定されている¹⁾。そのため秋田市街地の地盤特性もこの影響を大きく受けているようである。図-1に秋田市街地を示した。また市街地中央部における代表的な数値点における土質柱状図を図-2に示した。柱状図の番号は図-1には●印で示してある。興味深いことに市街地の中央部においても、表層直下に比較的厚い泥炭層の存在がみられる。北海道江別市などはその大半が泥炭層の上に発達した都市であるが、東北地方の県都で、かつその市街地の中央部にこのような厚い泥炭層の存在を報告した例はあまりないようである。もちろん市街地中央部のすべての地点で泥炭層の存在が認められているわけではないが、このような比較的厚い泥炭層の存在することが秋田市街地の地盤の一つの特徴とみてよいであろう。

ところで近年、秋田市においても都市の急速なスプロール化が進んでおり、市街地の住宅化が著しい。図-3は、ここ数年間のうちに造成された市郊外の住宅地(団地)における土質柱状図の数例である。柱状図の番号は図-1には▲印で示してある。図から解るように、ほとんどの宅地造成が泥炭地の上に行なわれている。わが国最大の面積をもつ狩泥炭地での泥炭層の厚さは最大7mであり、多くは5mを越えないといわれている²⁾が、図-3に示したように、秋田市ではこれが10m以上にもおよんでいる。これも秋田市街地の地盤の一つの特徴とみてよいであろう。

- 参考文献 1) 狩野豊太郎(1964)；秋田大学地下資源研究所報告 第30号 P.21~33
2) 坂口豊吉(1974)「泥炭地の地学」東京大学出版会 P.150

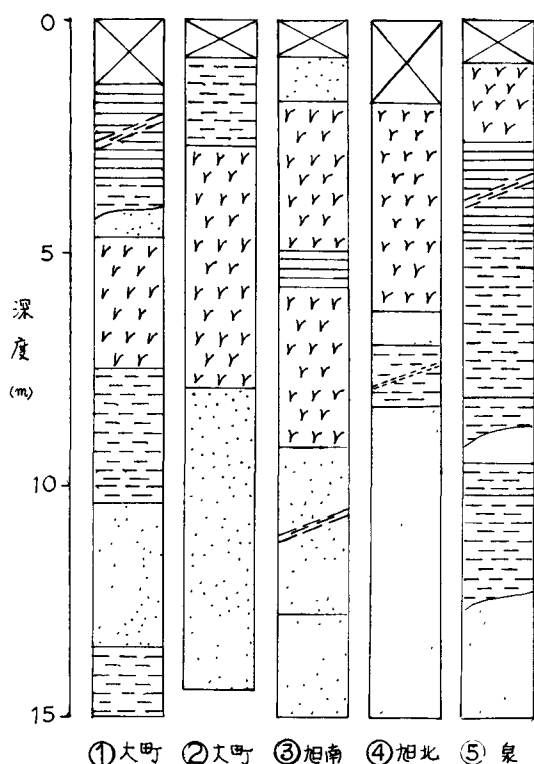


図-2 秋田市街地中央部の土質柱状図

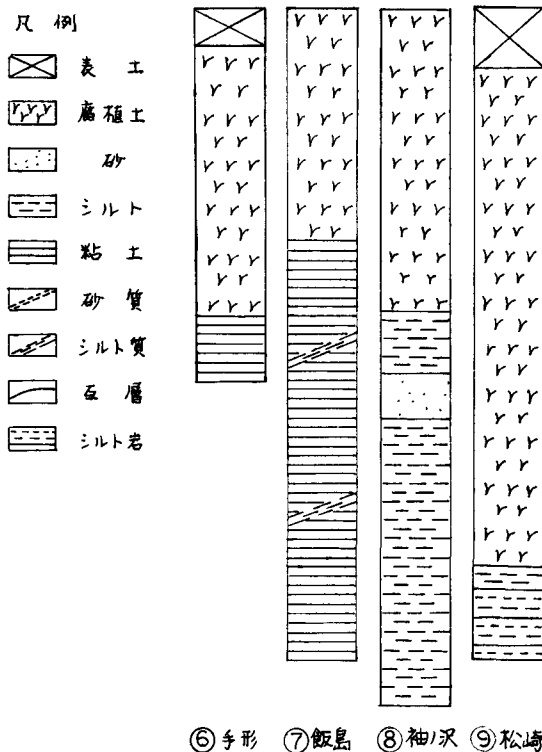


図-3 市郊外における土質柱状図